

名戸ヶ谷ビオトープだより

第21号

2006年10月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

泥んこ田んぼで悪戦苦闘

名戸ヶ谷小児童が稲刈り



9月5日、残暑厳しい中、名戸小5、6年生、総数134名による稲刈りが行われました。相変わらずの「どろんこ田んぼ」での悪戦苦闘でした。5年生が鎌を上手に使ってどんどん刈っていきますが、「束ね」の方が追いつかず、ビオトープ会員や先生方が懸命になって束ねていました(来年は束ねを藁ではなく麻ひもにかえましょう)。

束ねた稲は6年生が道路脇まで運び、そこからさらに別のグループが3人1チームでリヤカーで学校まで運び、プールサイドのフェンスに掛けました。先生方の指示と児童たちの歓声が響く中で、稲刈りは10時40

分頃に無事終了しました。汗と泥んこにまみれた稲刈りでしたが、みなさん本当にご苦労さまでした。ご指導いただいたビオトープ会員のみなさん、お疲れさまでした。なお、今回の稲刈りにはPTA副会長さんを含むお母さん方も見学に訪れ、どろんこの田んぼで悪戦苦闘する子どもたちの姿をスナップ写真に収めていました。また、時間を間違えて稲刈りが終了してから駆けつけたお母さんの姿もあり、悔やんでいる姿が印象的でした。(小笠原 智)

ひとくちインタビュー

- 楽しかった。切っていると「スポッ！」というから (5年男子)
- 鎌を使うのがちょっと大変だった (5年女子)
- 泥にはまって足を抜くのが大変だった (5年男子)
- 途中でキレたけど、汚れすぎたのでもう気にしなかった(5年男子)
- 束ね方をよく覚えていなかったのが難しかった(6年女子)
- 束ねは力があるのですごく大変。疲れた。手が痛くなった(6年女子)
- 稲束を積んだりリヤカーは重くて汗だらだらだった(6年男子)



田植えから稲刈りまで早いなと思いました。鎌を使うのは初めてで少し難しかったです。周りを見ると蛙やザリガニ、カマキリがいっぱいいました(5年男子)

こうした体験、親としても嬉しいです。私自身にも初体験です

(5年児童の母親)

泥んこになるという非日常的体験は貴重です。自分たちで手がけるとたべものを粗末にしない気持ちが育つのでとてもよいと思います(5年児童の母親)

天気もよく、子どもたちは張り切って参加することができました。久しぶりの泥にもすぐ慣れ、収穫の喜びを味わうことができました(5年担任 金正亜希子)

ものすごい暑さの中、外で稲まとめをしたのはとてもきつかった。自分が居た場所からはあまり動けなかったが、汗もたくさんかき、ものすごく疲れる仕事だった。ビオトープを守る会の方が「子どもの頃は塾へ行く代わりにこのような仕事をしていたんだよ」と云っていたので、昔の人はこんなに大変なことを毎日やっていたんだなあ、とびっくりしました。(6年 大竹 詩織)

水田稲作部会

稲の束ね方が課題

今年の水田稲作部会の稲刈りは、9月5日(火)に行われた名戸ヶ谷小学校の稲刈り作業の指導・手伝いを兼ねて、この日に終了しました。大勢の5・6年生を前に、鎌の使い方から稲の束ね方まで、懇切に指導して下さった増田さんはじめ、水田部稲作部会・不耕起部会のみなさん、お疲れさまでした。刈るのは楽しい反面、刈った稲の束ね方には課題が残りました。束ねの藁を麻ひもに変えることも含めて来年度の検討課題です。



束ねの藁を麻ひもに変えることも含めて来年度の検討課題です。



尚、炎天下でしたが、稲刈りに先立つ8月6日(土)、水田稲作部会は不耕起部会と合同で、水田稲作・不耕起、両方の田圃に防雀ネットを張りました。(小笠原 智・広報編集部)

不耕起稲作部会

今年の稲はうまいかな

9月9日(土)稲刈りの日を迎えた。今年は梅雨明けが遅れ、稲の生育への影響が心配されたが、8月に入り日照りにも恵まれ、平年並みと予想するも倒伏が目立ち、刈り取りに苦労しそうな状態でした。

初めての参加者を含め18名の刈る人、運ぶ人、掛ける人の連携プレーで初日は3枚の稲刈りを終了、残り2枚は日曜日、最後の5番田んぼは雨上がりの木曜日に終わりました。作業終了後の懇談の席上、「食味の期待」「倒伏稲の改善」に意見が寄せられました。皆様方の協力により無事終了しましたことに感謝いたします。(窪田孝志)



稲刈りは初体験ですが、昔の人の苦労が偲ばれます。収穫は楽しいですね。実がなると嬉しいものです。主に刈った稲の穂掛けをしました。(伊藤武夫)

体験させてもらって、やってよかった。稲を刈るときに音がして気持ちがいいね。足が抜けなくなって、田んぼの真ん中でやっていると思うんじゃないかと・・・(千葉憲久)

足踏み脱穀機3台フル稼働

もち米の部

今年は、学校にあったもの、才川さんが骨董屋さんから入手したもの、増田さんが入手したものを合わせて3台の脱穀機での作業になりました。

雨で順延した9月29日(金)、9時前からピオトープ会員で準備、先行作業。9時半から名戸ヶ谷小学校5年生の児童たちと学年の先生方で本番作業を開始。大雨の前に取り込んだ稲をまず運びました。会員が足で踏み、子どもたちが稲藁をもって脱穀。慣れてくると子どもたちも踏んだり、一人で踏みながら脱穀できる子どももいました。唐箕で脱穀した籾を選別するのもすぐ覚えてくれました。籾がちょっと「チクチク」しましたが、落ちた穂を拾ったり、藁に残った穂をしごいたり、みんなよくやってくれましたね。本当にお疲れさまでした。餅つきが楽しみで - す。(小笠原 智)



うるち米の部



雨が来る前に終わらせたいね……。5月半ばの田植えから4ヶ月半が経ちました。この日、10月1日、は木村さんの納屋の敷地を借りて、八十八の手をかけた(?)不耕起米の脱穀の日です。「農林省御推奨」のラベルも有難い足踏み脱穀機3台と唐箕を据え付けて、普段使わない筋肉をフル稼働させて作業を始めました。半世紀前の農村風景です。若いババママに手を引かれた小さいギャラリーさんも、何やってんだらう、と観ています。

その昔、一人が一年間に食べるお米の量は「1石」(150kg)だったそうです。さて、われらが田は何人の人を養うことができるでしょうか。今年は籾で約220~30kgでした。(上村 憲治)

木村さん作業場改修工事報告



8月21日(土)の合同作業日に、木村さんの事前了解を得て、雨漏りや床浸水のあった作業場の改修工事を行いました。屋根のトタンに一部半透明板を使って、作業場の内部が明るくなるようにしました。また、裏側シャッター下にブロックを一段積み、道路からの雨水が入らないようにしました。いつものことながら、山谷さんの見事な職人技には関心させられますね。(小笠原 智)

お知らせ

10月12日(木)13:50~14:35(正味45分間)の予定で、名戸ヶ谷小学校5、6年生147名を対象にした「わら細工学習会」が行われます。下準備で13:15分にピオトープ集合です。

ビオトープの生きもの



ルリタテハ タテハチョウ科

羽表は黒色の地に外縁に沿ってルリ色の帯のある美しい蝶で、英国では Blue Admiral (青い提督)と云われている。羽裏は枯葉色のまだら模様で、羽を閉じて止まっている時は目立たない。リバーシブルである。夏の羽表はルリ色が濃く、鮮やかで一層美しい。食草はサルトリイバラ、ホトトギスなど。成虫で越冬し、6月からは周年見ることが出来る。飛び方は早い、一度飛び立っても元の位置に戻る習性がある。分布は北海道から琉球(沖縄)までと広い。



ナガサキアゲハ アゲハチョウ科

前羽の長さ 62~76mm の蝶で、オス、メス共に後羽に尾状突起のないのが特徴。メスは前羽表面基部に三角形の明確な赤い紋がある。メスは後羽に白い紋があるが、オスは無紋である。食草はミカン、カラタチなど。かつては本州、中国地方より南の、台湾、ボルネオまで観察されたが、近年は地球温暖化の影響なのか、関東地方でも多く見られる。今年の夏千葉県で観察された黒い蝶の 50~60%はナガサキアゲハと云われる。(篠崎 将)

植物部会

8月19日、会員11名でビオトープの清掃と草刈を行いました。ビオトープの北側にササが生い茂っていましたが、これを取り除いたのが大きな収穫でした。この日、会員から草刈機がビオトープに貸与されました。その会員から草刈機の取り扱いについて説明を聞き実地指導を受けました。慣れない手つきでの運転はおぼつかなく、果たして来月から戦力になれるのか、やや不安がありますが、何とか早く慣れて行きたいものです。

(佐々木 光正)



名戸ヶ谷ビオトープの事例発表

環境シンポジウム千葉会議2006

9月17日(日)、第3分科会(里山・川・湿地分科会)が日本大学生産工学部津田沼キャンパスに於いて行われました。要請を受けて同分科会の実行委員である私が名戸ヶ谷ビオトープの事例発表を行いました。2つの基調報告、6つの事例発表、質疑討論と参加者40名で熱心な話し合いが行われました。

尚、全体会が11月12日(日)同じ場所で、午前分科会活動報告とポスターセッション、午後には討論、提案、基調報告が行われる予定です。(春山房子)

編集後記：この夏は日本列島に記録的な豪雨と台風被害。その余波か、ビオトープも雨の日が多く、陽光を求める育ち盛りの稲が気のせい少し痩せてみえました。冬に続き夏にもまた聞こえてくる地球の悲鳴です。ともあれ、水田稲作のモチ米では籾で約 200kg、不耕起米では凡そ 230kg の収穫でした。これからの季節、名戸小の「親子ふれあいの集い」での餅つきやビオトープでの収穫祭が待っています。この一年間の苦勞を偲びながらみんなで大いに楽しみましょう。

広報編集部(春山)